学年	中学３年	教科	家庭科	科目	技術・家庭	単位数	1
教科書名		技術・家庭　家庭科（開隆堂）		副教材名	なし		
コース・クラス		中高一貫					

Ⅰ．目標

生活に必要な知識・技術の習得を通して、進んで生活をよりよくする能力と実践的な態度を育てる。

Ⅱ．授業のねらい

住居、消費生活、食などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。

学習した知識や技術を生かして、生活課題を主体的に解決する態度と実践的に生活を充実させようとする態度を育成する。

Ⅲ．授業の進め方

(1)　教科書を中心に授業を展開し、プリントを使用して知識の定着を図る。

(2)　適宜実習を行い、実践的・体験的な授業を展開する。

Ⅳ．学習上の留意点

(1)　教科書、授業プリントを必ず用意して授業に臨むこと。

(2)　普段の生活と関連づけて考えること。

(3)　提出物の期限は必ず守ること。

Ⅴ．定期試験

(1)　教科書と授業プリントの内容に基づいて出題する。

(2)　定期試験の範囲（予定）

１学期　期末試験　：　「被服製作・食」について

２学期　期末試験　：　「住まい」について

３学期　学年末　　：　なし

Ⅵ．評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などで総合的に評価する。

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4 5 6 7	被服製作 地域の食文化 さまざまな食品とその選択	定期試験 作品 提出物 意欲・態度	・基本の手縫いを習得する。 ・郷土食や行事食などの継承・創造のために、日本の食文化を理解する。 ・食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。
二学期	9 10 11 12	住まいのはたらきとここちよさ 安全な住まいで安心な暮らし 持続可能な住生活 調理実習	定期試験 小テスト 提出物 意欲・態度	・住まいの基本的な役割について理解する。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ・住まいの空間の使い方について理解する。 ・さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。 ・家庭内の事故と種類と、その原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫をする。 ・災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。 ・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。 ・安全や衛生に注意し、調理の基本を習得する。
三学期	1 2 3	家庭生活と消費 消費者被害と消費者の自立	意欲・態度 提出物	・消費生活について理解する。 ・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。 ・消費者を支えるしくみ、消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。

※　シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。